

梅窓院通信『青山』
 発行／梅窓院
 編集／青山文化村
 発行日／平成13年9月1日
 発行人／中島 真成
 住所／〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
 電話／03-3404-8447 FAX／03-3404-8107
 ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/
 E-mail／jodo@baisouin.or.jp

秋彼岸号

No.6

2001/09/01

青山

AOYAMA

題字／浄土門主総本山知恩院門跡
 第八十六世中村康隆猊下

この日が来ることはわかって
 本堂の復興を決めた日から、
 化していきます。
 その瞬間に瓦礫の山と
 機が、ガリガリと旧本堂を削
 っています。
 大きなくちばしのような重
 機が、ガリガリと旧本堂を削
 っています。
 前号の表紙で仮本堂の屋上
 から撮った旧本堂の写真に掲
 載しましたが、今はその旧本
 堂が日々解体され、姿がなく
 なっていき様を見えています。

中島真成

梅窓院二十五世

ついに旧本堂が壊され始め
 ました。

大正末に建てられたこの本
 堂は、梅窓院の、そして青山
 のシンボルでもありました。

前号の表紙で仮本堂の屋上
 から撮った旧本堂の写真に掲
 載しましたが、今はその旧本
 堂が日々解体され、姿がなく
 なっていき様を見えています。

大きなくちばしのような重
 機が、ガリガリと旧本堂を削
 っています。

その瞬間に瓦礫の山と
 機が、ガリガリと旧本堂を削
 っています。

この日が来ることはわかって
 本堂の復興を決めた日から、
 化していきます。

残るに

旧本堂



お釈迦さまは諸行無常をさ
 とし、形あるものは滅すと仰
 られました。まこと有為転変
 は世の常であり、世の習いで
 はあります。
 とはいえ、こうして実際に
 窓越しにその変化を見ている
 と、簡単には割り切れないも
 のが残ります。
 法然上人の素晴らしさは、
 こうした頭ではわかっていて
 も、なかなか言うことをきか
 ない人間の本质を、素直に、
 そして優しく見つめられたこ
 とだと思えます。
 梅窓院の一時代の顔だった

いきましたが、いざ目の当たり
 にするのは辛いものです。
 独特の外観、時代を感じさせ
 せる細工、気配りのよく行き
 届いた内装。若輩の私よりも、
 旧本堂に色々な思い出をお持ち
 ちの皆さんにとってはより感
 慨深いものがあるに違いあり
 ません。



施餓鬼法要にて。

梅窓院の
 六地藏の由
 来や年代等
 は残念なが
 ら不明です
 が、江戸時
 代後期に作
 られ、境内
 にあったの
 ではないか
 と言われて
 います。

旧本堂、その面影を^{まぶた}に残し
 ながら新しい本堂へと思いを
 馳せる日々ですが、同時に
 色々な事を考えさせられる毎
 日が続いています。

境内散策

六地藏

墓地中央道を入ってすぐ左
 側に、六地藏が並んでいます。

六地藏は六道をさまよう人々
 を救済する身近な仏様として
 知られています。



静かにたたずむ六地藏

行事紹介

秋彼岸会法要

九月二十三日(日)

寄席 十三時～仮本堂

法要 十四時～仮本堂

落語 三遊亭歌る多師匠

〔詳細は三面へ〕

第二十四回念仏と法話の会

十月五日(金) 午後一時～

法話 宮城教区

光明院住職 奥清隆上人

※詳細は、同封の申込みハガキ
 を御覧下さい。

平成十三年度団体参拝

法然上人二十五霊場巡拝

伊勢・京都 方面

十月九日(火)～十一日(木)

伊勢神宮や、京都大原など、
 見どころ盛沢山の行程です。ど
 うぞお楽しみに。

※お問い合わせ 檀信徒部

〇三三四〇四一八四四七

万福 哲泉 螺鈿(らでん)展 開催のお知らせ

螺鈿師・万福哲泉氏の個人展が鎌倉芸術館で開催されます。昨年四月、当院祖
 師堂で開かれた螺鈿展にも、万福氏の作品が出展されていたので、ご記憶の方も
 多いかと思えます。今年、京都から鎌倉に住まいを移され心機一転。螺鈿への情
 熱がひときわ込められた、迫力ある作品の数々をぜひ御覧頂きたいと思えます。

平成13年9月14日(金)～19日(水)

10時～17時(最終日は16時まで) 入場無料

鎌倉芸術館(東海道線大船駅下車) Tel 0467-48-5500



哲泉作 漆黒桜螺鈿時絵香枕

梅窓院 通信

青山 梅窓院史

《廃仏毀釈と梅窓院》

その五



幕末を郡上で迎えた青山家ですが、江戸二百六十年の幕藩体制は明治を迎え、大名は没落します。日本の歴史を振り返ってもこの明治維新は大きな転換点の一つで、それこそ手の平を返すように世の中が変わりました。



梅窓院前の青山通りは、かつての大山街道。神奈川県伊勢原の大山のあふり神社へ向かう参拝者の通り道であった。写真上はあふり神社神殿。

のでした。仏教は六世紀半ばに日本に入ってきましたが、奈良時代から神仏習合といって神道と仏教がうまく融合してきていたのです。そこに突然、神さまと仏さまをきちんと区別しなさい、という命令が出たのです。

神仏分離と廃仏毀釈

この神仏分離令と切り離せないのが、廃仏毀釈です。廃仏毀釈とは仏を廃し、釈尊、つまり仏教をそしる、けなすという意味です。ただ、この運動は神仏分離令が発令されてから始まったものではなく、以前から各地で起きていました。それが発令以後は全国規模となり、各地で仏像が壊され、寺院が焼かれ、僧侶が普通の人の戻されました。その時に失った仏像や仏教美術品、建築物は想像もつかない数だったようです。その激しさに明治政府は廃仏否定を掲げますが、弾圧は続きました。

ここで忘れてはいけないのは、庶民からの迫害を、なぜ寺院が受けたかということですね。それはお寺が権力と結びつき、本来の宗教的立場から逸脱していたからです。日本のお寺の歴史をひもとくと、確かに伝来当時から権力者に庇護されてきた歴史があります。特別扱いを受けて来た寺院は何時の世でも、一

般庶民からみると優遇され、権力者の隠れ蓑に見えていたのかもしれない。こうした寺院に対して庶民が怒りをあらわにし、廃仏毀釈運動となつたのです。

お釈迦さまは縁起ということとを説かれましたが、因果応報、寺院にそうされるだけの原因があった、と素直に反省すべきなのかもしれません。

学寮梅窓院の始まり

ところで梅窓院はどうだったのでしょうか？ 幸なことに梅窓院は被害を受けずに済みました。ですが、隣にあった修験道寺院の鳳閣寺は廃寺の憂き目にあっています。

こうした中、大本山増上寺も寺領が激減し、明治十年、増上寺の学寮『慈忍室』がこの梅窓院に移って来ました。学寮梅窓院の始まりです。

明治になってからの変化はまだあります。それまで大名屋敷だけが並ぶ閑散としていた青山が、大名の没落とともに、商店や人家が立ち並び町に変化しました。もともと五街道に次ぐ幹線道路、大山街道を門前にしていた梅窓院ですから、時代の変化とともに大きく様変わりしました。

下は明治三十六年に出された『新撰東京名所絵図』ですが、正面左手に梅窓院の山門が見えています。通りには、

人力車が行き交い、露天商や鮎屋などの商店が立ち並び、大名屋敷とは違う賑わいが描かれています。

と同時に、道路拡張により門前地を失うことにもなりました。寺領一万三千坪が六千坪に減ってしまったのです。

明治維新からの時代の波は、確実に梅窓院にも襲ってきたのです。

(ルポライター真山剛)



明治時代の梅窓院。左中央に梅窓院の山門が見えるが、町並みの発展とともにその姿を大きく変えてきた。

秋のお彼岸

西に念ずる

『観無量寿経』というお経の中に日想観という教えがあります。これは極楽浄土を想う行で、太陽が真西に入る春秋の中日に、西の方角を向いて心を集中させ、極楽浄土の莊嚴を見ろという行です。この教えが、現在の彼岸法要の由来の一つといわれています。

彼岸塔婆お申し込み方法

同封のハガキを使い、九月十三日(木)必着でお申し込み下さい。塔婆回向料は一本七千円とさせていただきます。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、もしくは当院の受付まで直接お持ち下さい。 ※振込用紙は郵便局専用です。印字されている番号は、金額ではありませんのでお間違えないようお願いいたします。

彼岸会大法要

九月二十三日(日)
午後二時より
仮本堂にて

◆輪袈裟販売のご案内◆

輪袈裟をお持ちの方は、彼岸法要や年回法要の際にはご持参下さい。なお、施主以外の皆さまにも輪袈裟をお分け致しておりますので、当院受付でお問合せ下さい。頒価一万円です。数珠付です。

秋彼岸寄席

昨年の春彼岸寄席で大入り満員の大盛況となった、三遊亭歌る多師匠が出演致します。今年もまた師匠の落語で多いに笑ってください。

九月二十三日(日) 仮本堂

開演 午後一時

前座 柳家り助さん

落語 三遊亭歌る多師匠

※入場無料です。

ぜひ、お立ち寄り下さい。

「プロフィール」

三遊亭歌る多師匠

S37年荒川区生まれ。S56年三遊亭圓歌さん入門。S62年二つ目昇進。H5年女性としては初の真打に昇進。現在は年間で50ヶ所以上講演のために各地をまわっている。



三遊亭歌る多師匠



柳家り助さん

仏教研究所だより

仏教講座

往生要集を読む
講師 新井俊定先生
第五回 五月十日 開講
『往生要集』と法然上人

法然上人が『往生要集』から受けた影響について、解説して頂きました。

念仏と法話の会

六月十四日
講師 宮城教区

光明院住職 奥清隆上人

法話「仏像の心とかたち二」
今回は阿弥陀様の形と心について、お話を頂きました。

仮本堂 使用にあたっての お願い

本堂復興事業に伴い、本年度六月一日から、平成十五年秋までの約二年間、お檀家さまの回忌法要・葬儀をはじめとした、全ての行事は仮本堂で行われております。

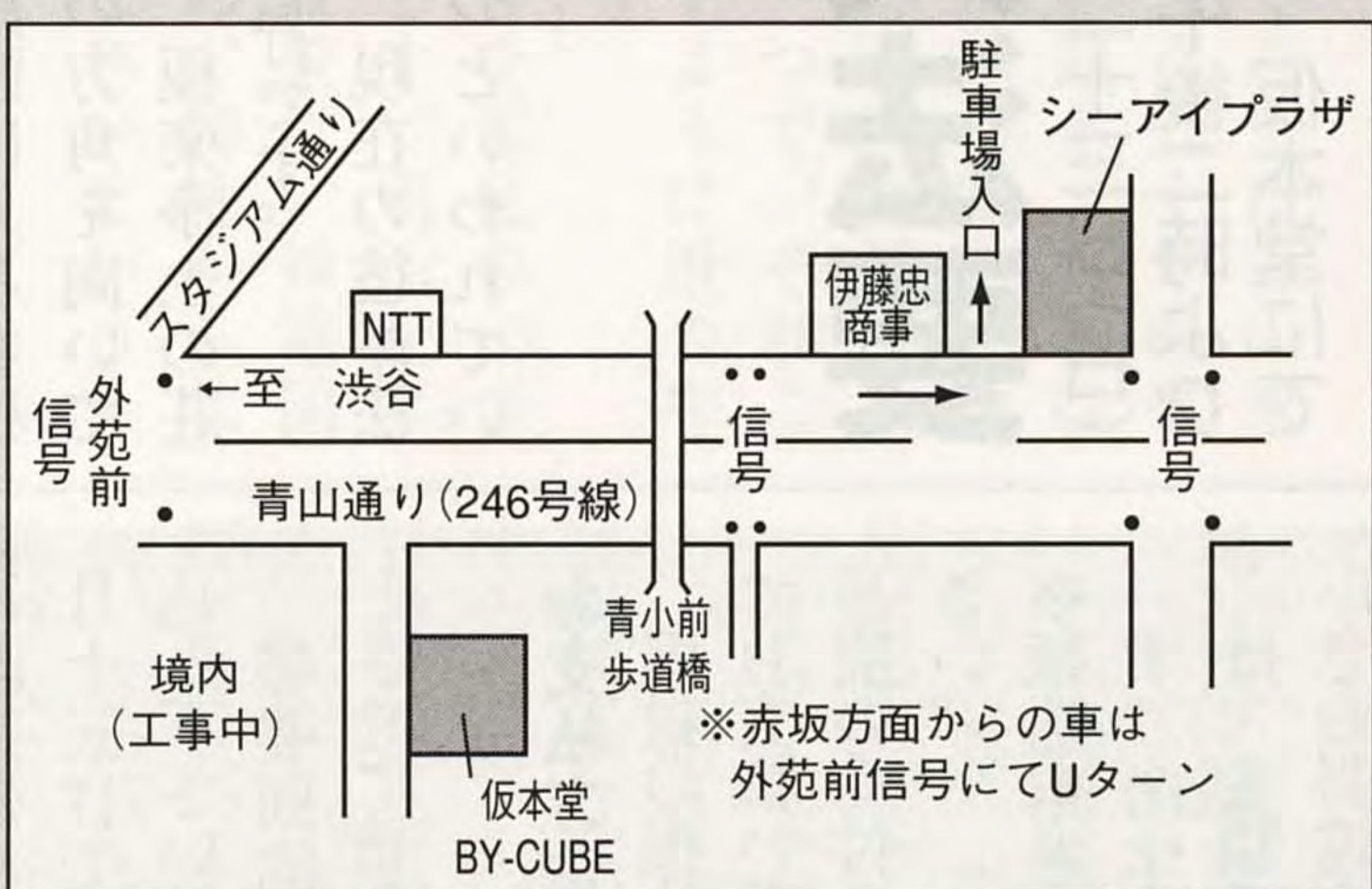
お檀家様には多大なご不便をお掛け致しておりますが、ご理解ご協力、重ねてお願い申し上げます。ご不明な点は、当院までお問い合わせ下さい。今回はお寄せ頂いた質問にお答え致します。

問 車はどこに停めればいいですか？
答 シーアイプラザ地下駐車場をご利用ください。

利用時間 七時～二十三日

料金 三十分／三百円

電話 〇三三四九七七九九七



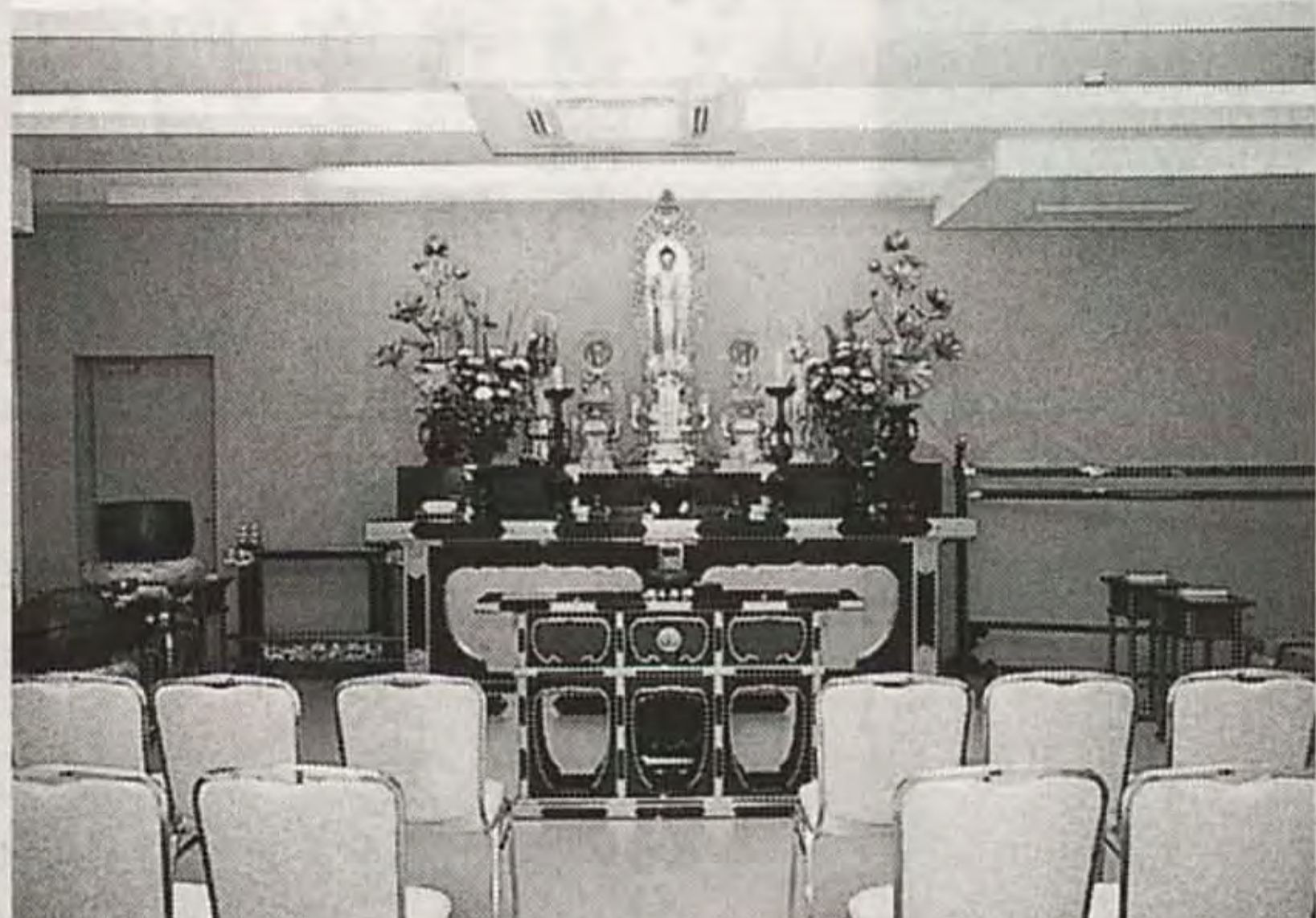
問 香花とお線香はどこで売っていますか？
答 梅窓院受付にて販売しております。

※彼岸期間中（九月二十二～二十三日）は、墓地のテント内にて販売しております。

問 法要の時の控え室はどこですか？
答 仮本堂の二階にございます。二十名以上でご利用の方は、事前にご相談ください。



問 仮本堂で葬儀はできますか？
答 基本的にはできませんが、人数に限りがあります。また、当院指定の葬儀社（青山典範）でのご利用となりますので御了承下さい。



◆復興事業新着情報◆
 新本堂完成までの約二年間、『青山』にて皆様に工事状況をお伝えしていきます。



六月中旬より、境内にある全ての建物の解体作業が始まりました。（七月二日撮影）

梅窓院を 困む人々



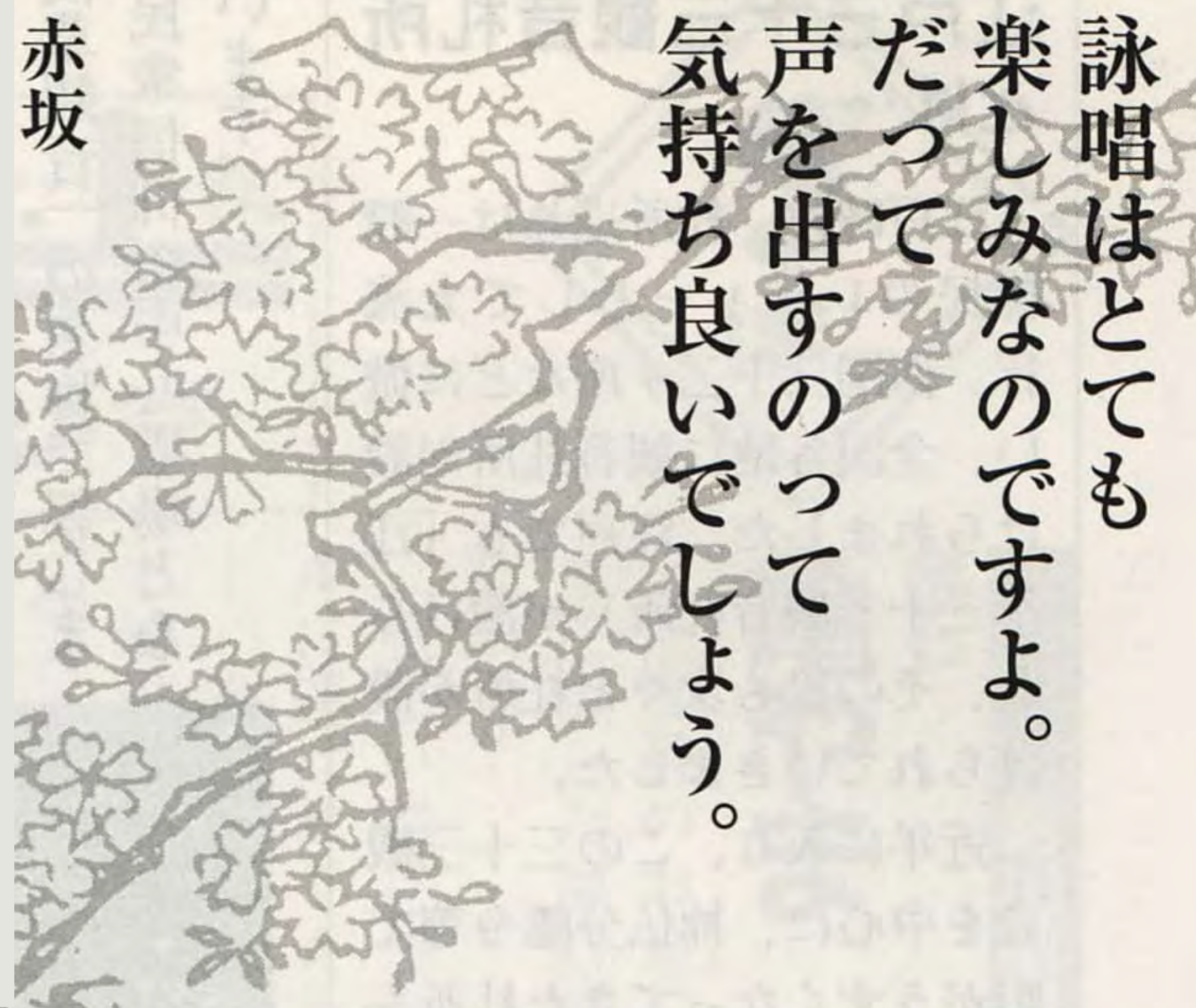
さんと二度目にお会いしたのは、梅窓院の詠唱会の練習前。仮本堂の二階で、これから始まる詠唱を楽しみに待たれている時だった。その姿を見た時、「詠唱はとても楽しみなのですよ。だって声を出すのって気持ちいいでしょう。」という、赤坂の御自宅での取材時に端座されながら話された言葉を思い出した。

孟蘭盆会を控えた練習に、多くの講員が集まり、泉博美先生が入ってきた。僧籍をもたれている泉先生は墨染めの衣装だ。そしてもう一人、衣ならぬ和服を召していたのがさんだった。涼し気な色柄のきれいな絹の和服だ。しばらくして練習が始まった。伴奏に合わせてお称えの声（詠唱は歌うとは言わずに称えるという）が響き渡った。

お下げ髪が可愛らしい少女時代のさん。活発さはこのころから変わらない？！

詠唱はとても
楽しみなのですよ。
だって
声を出すのって
気持ち良いでしょう。

赤坂



さん

赤坂の自宅で桜に
囲まれての一枚。

梅窓院の各種行事で聞かれた方も多いかもしれないが、三年前からこの梅窓院でも始まった詠唱は、全国の浄土宗寺院に広まっていて、各種法要で称えられることが多い。

そして総本山知恩院、大本山増上寺にはそれぞれ吉水講と呼ばれる詠唱の団体があり、二つを合わせると、五万人近い数にのぼる。また、詠唱は大きく和讃と御詠歌に分かれるそうだが、その辺りの詳しいことを知りたい方は泉先生に聞いていただくのがよい。

さんの詠唱歴は三年。そう、梅窓院詠唱会発足当時から、梅窓院詠唱会発足当時から、月二回の

練習には欠かさず出席されている。

かつては宝塚歌劇団のファンで、いつも歌を口ずさんでいたという。いまはレビュウでなく詠唱というわけだ。

さて、さんは青山生まれの青山育ち、現在は隣の赤坂にお住まいだが、子供の頃はこの梅窓院や表参道の善光寺を遊び場としていた生っ粋の青山っ子だ。

生家は鶏肉鶏卵を扱う商家。いまでこそお肉屋さんには牛、豚、鳥と三種の肉を扱うが、昔、鶏肉は鶏卵屋さんでしか売っていなかった。かしわと呼ばれていた鶏は、流通経路が違っていたのである。

今では卵はスーパーの目玉商品で、「M玉ワンパック〇〇円」などと安売りされるが、昭和初期はそれこそ高級品で、お使いものにされていた。

さんの実家は宮内庁御用達の老舗で、^{もみ}粉が敷きつめられ、和紙で包まれた卵が贈答品として扱われていたという。

その青山の鶏肉鶏卵屋さんから、赤坂の鶏肉鶏卵問屋に嫁いだのが十九歳の時。相手の親に気に入られての結婚だった。

しかし、間もなく太平洋戦争に突入、御主人の さんは戦地へ。

さんの乳飲み子を含む四人の子供を抱えての疎開生

結婚を前にして「ゆいわた」という髪型で撮った記念写真。

活が始まった。

疎開先は長野県。屋代の親戚を訪ねたが、親戚だけに逆に長くとどまりにくく、親子五人は転々と住まいを変えた。

商売を営んでいたこともあり、少々のお金はあったものの、何せ買うものが何もない。六歳、五歳、四歳の年子三人に一歳の乳飲み子、そして自分の食べ物を手にするだけでも大変だった。とはいっても子供たちの優しさに涙したのもこの時だった。

「無事帰還した主人が長野まで迎えに来てくれるまでの三年間、それは大変でしたけど、振り返れば一番楽しい時でもありました。」

そう言いながら眼鏡の奥の瞳を潤ませた さん。私たちが戦後生まれ世代には想像もつかない艱難^{かんなん}辛苦^{しんく}をなめられてきたに違いない。

さて、戦後無事青山に戻ってからは、順風満帆。御主人は戦後新しい仕事を始め、や

少女時代は宝塚劇団の大ファン。お姉さんと一緒によく通っていたという。



がて父の時に入檀した梅窓院の檀家総代を務めた。その御主人が亡くなったのが、二十二年前、そして さんも今年の三月までの四年にわたって、檀家総代を務めていた。ご夫婦での檀家総代は珍しい。そんな さんは今、五人の子供、十五人の孫、三人のひ孫に囲まれている。その上、 さんのご兄弟五人もまだお元気だ。人生、山あり谷あり。そんな道を歩いて来られた さんは、そんな事を少しも感じさせない笑顔で、今日も声を響かせている。

◆詠唱講員募集のお知らせ◆

練習日 毎月第2・4土曜日
時間 午後3時45分～午後5時15分まで
場所 梅窓院仮本堂2階 ※椅子席
お茶代 毎月1000円

初心者の方でも心配ありません。ご興味がありましたらぜひ一度見学にいらしてください。

お問い合わせ 泉 博美

電話 03-3404-8447



江戸三十三観音 札所めぐり

第一回



浅草から始まり目黒で打ち納めとなるこの札所巡りは、区内をぐるっと一回りできる格好のお散歩コース。都心にひっそり佇む観音様を訪ね、出掛けてみませんか？ 忙しい日常の中に、ささやかな安らぎをもたらしてくれるかもしれません。今号から三か寺ずつ紙面にてご紹介していきます。

第一番 金龍山 浅草寺

札所本尊 聖観世音菩薩

国内外からの観光客で終日賑わいが絶えない東京名所といえは浅草の浅草寺。

本尊は御宮殿に「秘仏」として厨子の中に納められ、その前には「御前立」の本尊が安置されています。特別な開扉法要の時のみ、御前立本尊を直接拝する事ができます。

「浅草観音」の名称で親しまれ、民衆信仰の中心霊場となっています。



【交通機関】都営地下鉄浅草線・営団地下鉄銀座線・東武伊勢崎線 浅草駅から徒歩三分。

第二番 江北山 清水寺

札所本尊 千手観世音菩薩

合羽橋問屋街通りを歩くと二階建てのモダンなお寺、清水寺を見つけることができます。平安時代、疫病退散を祈願して千手観音を奉ったのが起源だと伝えられています。問屋街を散策しつつ、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

【交通機関】営団地下鉄銀座線 田原町から徒歩五分。



第三番 人形町 大観音

札所本尊 聖観世音菩薩

ここに奉られている本尊は、鑄鉄製の菩薩頭。もともと鎌倉のお寺に奉られていた観音像でしたが、鎌倉時代の火災により倒壊。その後江戸時代に頭部が発見され、明治時代にこの場所に安置されました。毎月十七日に開帳され、信仰を集めています。



【交通機関】都営浅草線・営団日比谷線 人形町駅から徒歩一分。

昭和新撰 江戸三十三観音札所とは…

江戸時代、札所巡りは一般庶民のレジャーとして大流行。西国三十三ヶ所などに倣い、全国各地に観音札所が設けられました。江戸でも「江戸三十三観音札所」が設けられ、その後も次々と札所が設けられていきました。

近年に入り、この三十三観音を中心に、神仏分離令等で影がうすくなってきた札所を補って「昭和新撰」として再興されました。

参考文献 『昭和新撰江戸三十三観音札所案内』江戸札所会発行

ご朱印について

ご朱印の別名は「ご納経」で、もともとはお経を自分で書写して「お納め」することでもらえた「ご判」です。

しかし近年になり、この習慣が省略化され、お経を納めなくても参詣の証として「ご判」を頂くようになってしまいました。

ですから、このシリーズをお読みいただいて、札所巡りを始めようとされている皆さんは、せめて本尊前でお経を称えるか、手を合わせることをお忘れなく。



第三十一番	第二十八番	第二十五番	第二十二番	第十九番	第十六番	第十三番	第十番	第七番	第四番	第一番
未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未
第三十二番	第二十九番	第二十六番	第二十三番	第二十番	第十七番	第十四番	第十一番	第八番	第五番	第二番
未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未
第三十三番	第三十番	第二十七番	第二十四番	第二十一番	第十八番	第十五番	第十二番	第九番	第六番	第三番
未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未

江戸三十三観音御朱印

読者の方から
寄せられた
ご意見

・新しくなる梅窓院の姿をできるだけ詳しく特集して下さい。(目黒区Iさん)
・青山には沢山の有名店があるので、墓参りの帰りに立ち寄りしたい店など紹介して下さい。(国立市Kさん)
・仏教や経典、習慣など質疑の欄を設けたらどうですか。(中央区Mさん)
・墓地に切支丹灯籠がありました。その後どうなりましたか。(兵庫県Oさん)
・戒名についての特集をお願いします。

(太田市Uさん)
・事実の記載だけでなく、先人の心の特集を。
(杉並区Mさん)

前号でお願いしたアンケートに多数のご意見を頂き、ありがとうございます。次号より、こうした皆さまからの質問にお答えしていく予定です。

今後、皆さまの声をどんどん紙面に反映させ、お寺をもっと身近に感じてもらえる紙面づくりに励みたいと思います。今後ともご意見、ご感想をお待ちしております。

〒107-0062
港区南青山二丁目二六三八
梅窓院 青山文化村



青山散歩道

懐石 亀やま

法要後のお齋に、旬の素材を活かした懐石料理はいかがですか？

美しい器に盛りられ、テーブルに運ばれてくる料理の品々。常連さんが多いのも思わず納得してしまうのが、この「懐石亀やま」です。

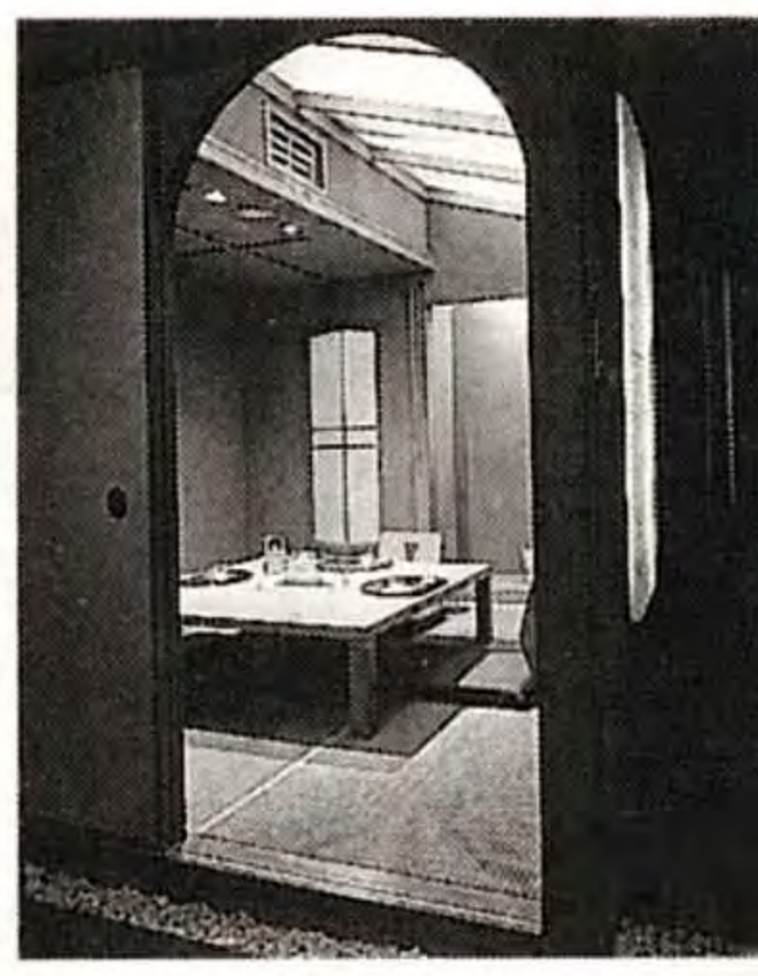
茶室をイメージしてつくられた個室では、自然と心が落ち着き、ゆったりとお食事をすることが出来ます。



懐石コースの一例。



最大35名まで利用できる個室。



モダンなつくりと和の空間がうまく融合した落ちついた店内。

ランチタイムで人気なのは懐石風日替わり弁当。三種類のおかずとデザートがついて千五百円。お手ごろ価格で懐石を楽しみたい方には、格好のメニューです。
各コースは昼は五千円から、夜は一万円で予算に応じた季節の料理を注文できるので、オリジナルの懐石料理を存分に楽しめます。

青山俳壇

選者・「俳句朝日」顧問

大崎紀夫

向日葵／茄子

◎特選

仏前の茄子つややかに一周忌

(評) 亡き人の一周忌に茄子を供えたところ、その茄子のつややかな光が作者の胸に複雑な思いをかき立てた。という句です。「つややかに」の一語がこの句を支えています。

◎佳作

流れくる茄子馬をつく子どもかな

浅漬けのこなすをつまむ夕餉かな

向日葵の咲き満ちてをり吾子の墓

海山の霊ひきよせる施餓鬼寺

ひまはりの大きひとつは頭垂れ

ひまはりの模様の大き浴衣かな

ひまはりの海に向かひて揺れてをり

◎選者詠

割箸の足長すぎる茄子の馬

へんポイントアドバイス

最近では生活事情の移り変わりにより、季語も変化して来ています。『歳時記』を利用し、新しい季語を使って詠むのも楽しいでしょう。

大崎紀夫

投句募集

次回のテーマは「秋刀魚」「栗」または当季雑詠とします。十一月十日を締切、十二月末発送の『新年号』にて発表させていただきます。応募は住所、氏名、年齢をお書き添え下さい。お待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

食は命なり

第四回

武鈴子

食養研究家

風邪・冷え性の妙
「生姜湯」

季節の変わり目は天候が不順なために体調を崩しやすい。特に秋口は、昼間は夏の暑熱が残っているので暑いように感じても、夜間になると急に冷え込んでくる。そのためちょっと油断するとすぐ風邪をひいてしまったりする。秋は夏から冬への過渡期で、気温は涼から寒へと次第に変わり、日ごと寒さが増していくので、特に高齢者や慢性疾患などで免疫力が低下している人は寒気から体を守る注意が必要です。

寒気を防いで、風邪を予防してくれる家庭薬、それが昔から伝えられている「生姜湯」です。誰にでも簡単に作れて美味しいこの生姜湯は、飲んでいてうちに体がぽかぽかと暖まってきてますので、手足が冷えて眠れないとか、冷え性の人などにもピッタリの薬です。

生姜湯の作り方は、大きめのお茶碗に生姜のしぼり汁を大さじ一杯、それに黒砂糖を適宜加えて、熱湯をたっぷり注いで混ぜるだけ。これに本葛を大さじ一杯分加えると効果がさらに増します。風邪のひき始めなどに飲むといっぺんで治ってしまいます。

生姜の特徴は、さわやかな香りとピリッとした辛み。古くから体によいスパイスとして、世界中で広く利用されてきました。

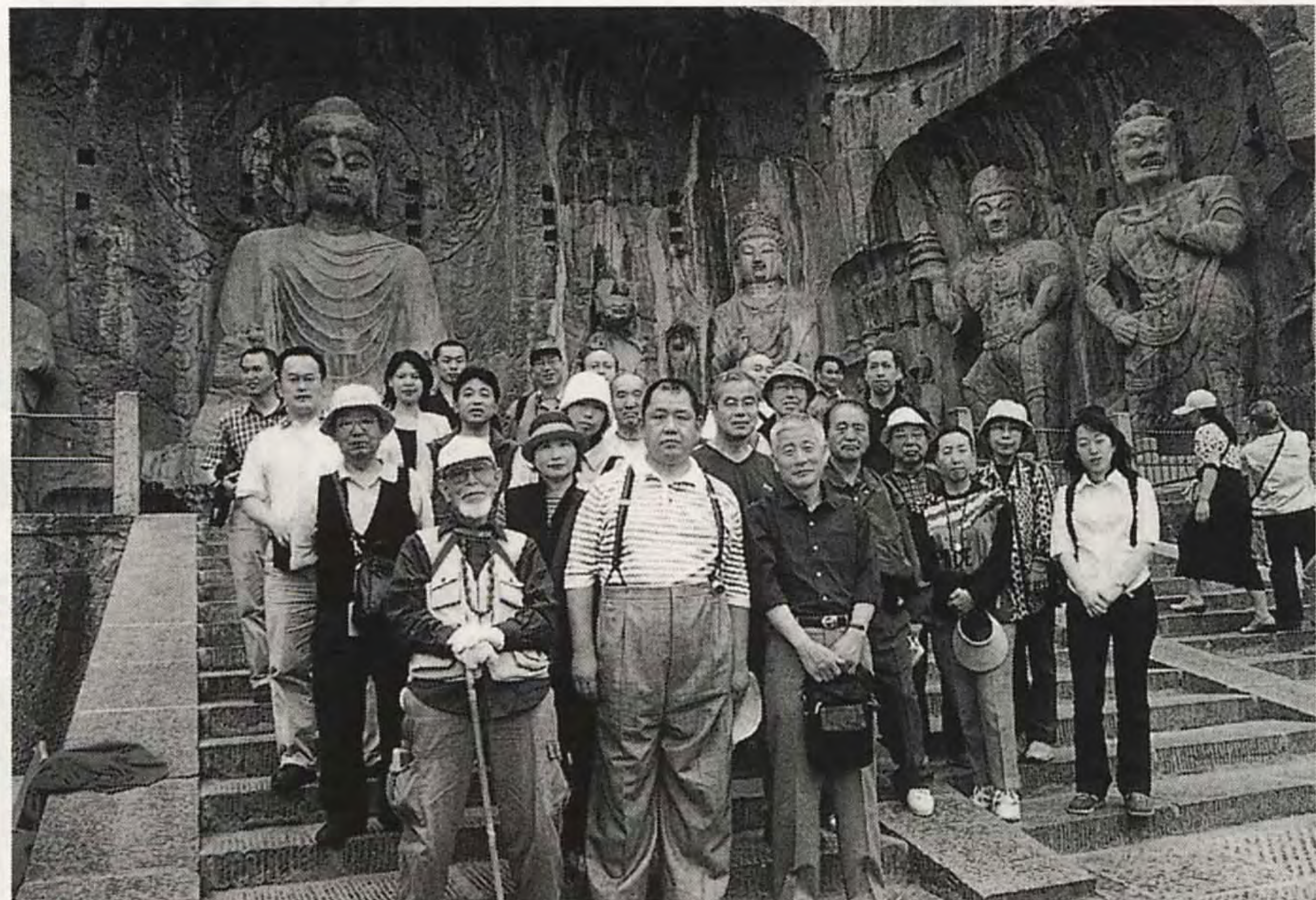
体を温めて新陳代謝をよくし、血行をよくするという働きは、日ごとに気温が下がって寒くなっていく秋から冬に向けてのまさに妙薬といえましょう。

・ 行 ・ 事 ・ 報 ・ 告 ・



中国 団体参拝の旅

五月十日～十九日 十日間
 太原・西安・洛陽・上海
 傳通院で毎年行われている海外団参が今年も企画され、今回は梅窓院から、住職を始めお檀家様の参加も頂きました。
 訪問先である太原の玄中寺は、多くの高僧知識を輩出した中国で最も由緒ある寺院であり、ここで傳通院
 貫主の二十七回忌法要が厳かに執り行われました。
 その他、西安では浄土教の発祥となった香積寺の参拝や、およそ四百年かけて造られた洛陽の龍門石窟を見学するなど、大変充実した団参となりました。



中国三大石窟に挙げられる龍門の石窟にて。

郡上おどり in 青山

六月二日・三日 開催
 本堂建替えの為、例年より早い開催にもかかわらず、連日五〇〇人を越す郡上おどりファンで賑わいました。
 今年も郡上八幡から保存会の皆さんにお越し頂き、特設櫓の上で御囃子を披露。集まった踊り手さん達も、それぞれ個性的な踊りを繰り広げ、境内は本場宛らの熱気で包まれていました。
 踊り手さん達で賑わう境内。



踊り手さん達で賑わう境内。

鎌倉・横浜 団体参拝の旅

六月九日 開催

梅雨の合間、幸運にもお天気に恵まれて、お檀家様とご一緒に鎌倉・横浜を巡るバスの旅をして参りました。
 訪れた光明寺では当院詠唱会の皆様による詠唱奉納も行なわれ、緊張に包まれながらも印象深い参拝となりました。
 横浜中華街の有名店、萬珍楼での食事も、円卓を囲んで会話も弾み、終始和やかな雰囲気でした。
 今回は、四十名を超えるご参加を頂き、大変賑やかな旅行となりました。次回の団参も企画しますので、ぜひお楽しみに。

施餓鬼会大法要

七月二十一日 仮本堂にて
 猛暑の中、多くのお檀家様がお参りに来られました。



仮本堂で迎える初めての施餓鬼。

慶祝



鎌倉大仏前での集合写真。

